



新たな気持ちで・・・令和7年度辞令交付式



発行所：ほかにわ共和国
発行責任者：志賀俊紀
編集責任者：ほかにわ広報部



更なる進化を目指して

理事長 志賀俊紀

令和七年度の言葉は「ほかにわないオンリーワンの更なる原点回帰」にした。その理由は、旧八幡会から分離独立して二十年を経過したが、新たなスタートの時である。私は、「福祉施設は二十年で一人前に成長する」と喝破してきた。さて新年度にな

初心を忘れずに

ワークネットやはた
管理者 松尾喜一

令和7年度より、ワークネットやはた・相談支援事業所つばきの管理者として辞令を受けました。

私は、平成15年4月に八雲寮とのご縁があって作業指導員として採用され、勤続23年目を迎えました。作業指導員だったこともあり、入職してこれまで生活支援員と同時に、就労支援に関わることが多くありました。様々な場面で利用者の方はもちろん、職員の方々とも一緒に汗を流し、時には失敗しながらも、その失敗を糧に自分なりに試行錯誤しながら取り組んでいったことで、少しずつ成長できたのではないかと思います。

法人の理念の1つでもある「共汗共育」を、身をもって経験できたことで「共汗共育」は私の信念になりました。

福祉制度は改正され、サービスも充実してきたことで、暮らし方や働き方も変化してきましたが、利用者の皆さん、一緒に働く職員皆さんと「共に汗して、共に育つ」という姿勢を大切にして、これからも取り組んでいきたいと思っています。

れば、辞令交付式がある。数年前までは複写式の辞令を一枚一枚心を込めて手書きで発令していた。最近では、事務局で作成した辞令であるので事務的に私の役割は終わったようである。まあ時代だから仕方がないが、二十年で三千三十号になった。二十年で割ると約百五十人分であるが、途中でこれまでに退職した職員が約10%と計算して職員の数は百数十名であろう。前職場の時は常務理事であったので、やはり辞令を手書きの複写だった。多分四十年間で五千号を筆記したと思うが、退職者が5%程度であったので、百二十名程度の職員であったと思う。最近の職員不足を考えると夢のような数字である。

さて本年は、「更なる原点回帰」とした理由は、「初心忘れずべからず」の心意気である。つまり、法人の使命観「ミッション」である。法人では、使命や任務、存在意義といった言葉は大切である。次に、「ビジョン」であるが、将来像などといった展望、構想なども重要で、組織の在り方が問われるキーワードである。そして、個人的意味合いが強い「パッション」は情熱、激情などを表し活力の要素であろう。そして私は、八雲寮が創設された時に次のミッションを「①社会参加の松、②社会自立の松、③能力開発の松、④社会啓発の松」を示した。ほかにわ共和国で重要な記念日は11月11日（建国記念日）、1月5日（松飾のある研修会）、7月15日（八雲寮創立）である。神道の精神の奥津城、鳥居なども充実して志賀幸村翁夫妻は喜びであらう。



ほかにわないOnlyOneの言葉

「慈愛の心」

利用者の方やスタッフを自分の子供や家族のように見返りを求めない愛情で接しようと思ひ決めました。 八雲寮支援員 奥野勇治

「共感」

発言に対し、共感されることにより自信につながったり、自然と笑顔になるためこの言葉を選びました。 デイ雲支援員 井上美保

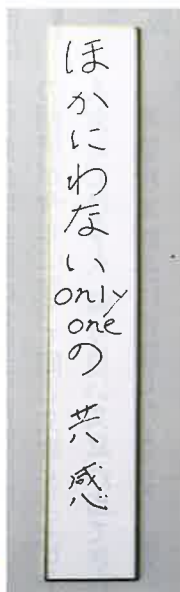
「円居」

私達は、毎朝朝礼で「円居」し気持ちを一つにしています。毎朝実施するこの「円居」をオンリーワンのものへと昇華し、気持ちと心を1つにして日々、業務に励みます。

デイ雲柿の木支援員 村上松晃



「慈愛の心」



「共感」



「円居」

歴史湛(た)える港・口之津②

口之津歴史民俗資料館長 松本 昇

I 口之津教会

東大泊の「伝 口之津教会跡」とされる石碑には、次のような教会跡として確定した理由が刻まれている。

1968年のアルメイダ書簡によると、「我らの教会から、良き小銃の一射程ほど離れた非常に厳かな高い所にある岬の聖母の小聖堂」と記録していることから、口之津教会の場所について、「日本二十六聖人記念館」の前館長、結城了悟氏は「大泊の中で早崎へ行く道の辻辺りである」と述べられている。この辺りに教会があったとされる。

筆者としては、大泊の「伝 口之津教会跡」辺りに教会があったことを否定するつもりは全くない。が、キリスト教に関する政治情勢の変化に伴い、セミナリヨ（神学校）が移転したように、口之津教会の場所もまた、変わっていったのではなかろうか。そう思えてならない。



伝 口之津教会跡



石碑

1563年4月12日、イエズス会キリスト教の布教長アルメ・デ・トルレス（1510-70）の命を受けた修道士ルイス・デ・アルメイダ（1525-1583）は、横瀬浦を出発した。大村・島原を経由してようやく口之津に着いたのは、5月上旬のことである。アルメイダは当地で温かく迎えられ、有馬の領主が口之津の来た時に泊まる代官の家に泊まった。早速、彼は布教活動を始め、15日間で多くの子どもたちを含む250人に洗礼を授けた。その後島原に戻ってからしばらくして、6月の初め、ふたたび口之津に向けて船に乗った。

口之津に着くと、キリシタンのかつての熱意はうすれ、集会所だった代官の家は閑散としていた。原因を調べてみると、キリシタンは「家の敷物（畳）を傷つけたり汚したりする故に」、また「主君の面前に出ぬようにするため」、遠慮していることがわかった。（代官の屋敷は荃山、つまり現在の東久木山か、あるいは、仲町にあったとされる）

領主に相談すると、自分が好きなようにするがいいという返事だった。そこでアルメイダは、「領主が教会を建設するため我らに与えた地所に（在る）大きな寺院の家屋」を、100名近くの作業員に手伝ってもらい、教会用にきれいに修理した。今は亡き福田八郎氏によれば、この廃寺は、玉峰寺が1639年に建立される以前にあった大龍寺ではないかとのことである、或る年のアルメイダ書簡には、縁側の傍らに水槽があって、「非常に美しい水管により水を引いている」と記されてあるが、この水は近くを流れる不断河（ふだんご）から引いていたものと思われる。



玉峰寺境内のキリスト教墓碑



教会跡（玉峰寺）

※この伏せ墓は17世紀前半の墓碑の特徴である。
※右側の写真は、白石正秀氏の本『思い出すままに』から転写したものである。

次号よりしばらく休載となります。

福祉文化史で見る

口之津港開港の謎を文献で調査した結果、口之津史談会と有家史談会のこれまでの公式は認識に異議ありを見出した。

書簡 62 島原発 1564 年11月15日ルイス・フロイスは、都への道中から島原のトルレス神父宛に書簡を出している。その中でフロイスは島原について、口之津の港に関する情報を発信している。書簡 63 福田発アルメイダ修士の見解、及び対応が口之津港への移転を決定づけている。そして、書簡 65・66・67・68 はフロイスの発信になっている。しかも書簡 62 1564 年11月15日島原

発において、ルイス・フロイスは、都への道中から島原のトルレス神父宛に書簡を出している。その書簡の内容は「現世のことから（話を）始めれば、この地は（ルイス・デ・アルメイダ修士から）日本で体験したことについて聞いたところによれば、日本にある中で最も爽快にして位置も最良の町の一つである。入江には百隻近い大船があり、それらはほとんどがガレイ船である。殿が教会のため我らに与えた城は日本でも見た中でも最良の地所の一つであり、上部は木材で囲い、下部は地所全体に海が取り巻いており、町の中央に位置している。すなわち、キリシタンがあらちから集まるところにあつて、同所には何人の家もない。またそこから町全体と港の入口が見渡せる。教会用の木材は、真の友人にして、初期の善良なるキリスト教徒のように信仰のことに甚だ熱心なドンジアンのおかれている。」と叙述している。口之津港の開港に関して、六十二年

生成 AI の機能と驚異的翻訳力

最近 NHK のニュースなどで人工頭脳が活用され翻訳が急速に充実してきた。この傾向は

と六十七年説が口之津の史談会と有家史談会で議論されている。島原半島の各町は、両説を適宜取り入れ叙述されているそうである。結論的に言えば、六十四年六月を南蛮交易

に関する口之津港開港と結論付けた。根拠になったのはイエズス会の日本報告集で、口之津、有馬、平戸などから発信されている書簡の調査と確認が主でした。私の発表に続いて質問討論の時間が持たれましたが、双方からのこれまでの論点が示されました。

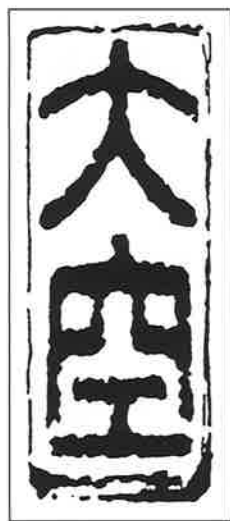
私の一五六四年六月は口之津にイエズス会の仮事務所が高瀬（肥後玉名）から移転している事実は重い歴史の実態である。

喜ばしい事である。私はダウン症の研究を細々としているが、文献は外国語で書かれており、苦手意識が先行してしまう。例えば、ボストン美術館の学芸員の貴重な指摘に関して、八年前の翻訳が今年になって同じ文章をコンピュータに入力してみると、解り易い文章が出てきた。

早速松本館長に相談したところ、遜色のない翻訳になっているとの指摘を頂いた。問題の肖像画はマンテーニャの作品である。この作品の他に二点が、イタリアおよびフランスの美術館に所蔵されている。

これまで絵画の説明などその由縁が重要であったが、志賀の福祉文化史の手法に翻訳ソフトを活用することで、飛躍的論理展開が可能になった。





障害者支援施設 八雲寮広報部



今後の行事
5月
帰省（予定）
小グループ活動
6月
収穫祭



会長に選ばれたのは？

令和七年度の自治会役員選挙が行われました。今年は佐藤浩史さん、城山勇次さん、松尾房徳さん、宮崎功さんの四名が立候補されました。選挙当日は食堂へ集合し、各候補者は所信表明を応援者は応援演説を自信たつぷりに行いました。開票結果、佐藤浩史さんが会長として当選を果たされました。佐藤さんは大きな声で「皆さんのために頑張ります」と意気込みを伝えられました。

がんばらんば宣言

今回ご紹介するのは・・・？



池田晃之さん

デイ雲柿の木から来ました池田です。皆さんこれから宜しくお願いします。

進むべき方向性の分岐点

施設長 志賀常盤

令和六年度は大きな流れが起きた。一つ目に、人材不足が続いていた状態であり、夜勤職員と生活支援員それぞれに不足が生じていた。地域の知り合いになりふり構わず、集会所や道端など会う人会う人に声をかけまくった。結果としては皆無状態である。ところが、関連性の無いところから一人募集が入り、数か月後には一人募集があり、またまた応募が入る。結果、三人の夜勤専門員の入職となった。一方で生活支援員についても一人募集、また一人募集と期末には三名の生活支援員が入職となった。

つまり、願う気持ちが大切なのである。勿論、人様に説明できるエビデンスなんてものは存在しない。ただ、何事も強く願うことで必ず通じることは確かなのである。

さてここからが重要な部分に入っていく。まずは現在の職員に対し、新任職員を大切に育てていく事を伝える。次に、今まで人材不足が生じていたため、なんでもかんでも即戦力としないようにする。人の成長は十人十色、人生経験があるという理由で、即戦力になるという偏見は持たない事。本質は新人なのだから。定期的な面談を行いながら、現状把握を行い、つまずきやトラブルにアンテナを張り巡らす。石の上にも三年とあるように、少しずつつゆつくりと成長を見守る心の余裕を持たなければならぬ。

令和七年四月、やっとの思いで人員体制が揃った。これで終わりではなくスタートライ

思い出溢れる活動発表会！

令和6年度の集大成である八雲寮活動発表会を食堂にて開催しました。

今年は1年間の思い出スライドショー、ビンゴ大会を行い、利用者の方の顔写真を用いた「お顔deビンゴゲーム」ではビンゴになると元気な声が会場に響き、嬉しそうに景品を受け取られていました。



思い出スライドショー視聴の様子

また活動様子をまとめた上映では自分の写真が映し出されると、保護者の方に自慢されている様子が見られました。多くの保護者の皆様に参加いただき、笑顔溢れる時間を過ごすことができました。上映の最後にはこのようなメッセージが添えられていました。「行事に参加したから楽しいのかな？ううん、それだけじゃない。みんながいるから楽しいんだ。仲間がいるから嬉しいんだ。1人じゃないから面白いんだ。」些細な出来事かもしれないけれど、仲間と一緒に参加するから嬉しさも楽しさも増していくのだと思います。共に過ごしてきた仲間と“今”を過ごせる喜びを感じてもらえるよう、今年度も様々な活動を計画していきます。（濱田）



クラブ活動作品展示



創作 クラブ



四月の自治会活動時に任命式が執り行われます。みなさんにはこれから八雲寮を楽しく元気にしていただきます。いと期待します。（井上）

NewFace ~職員紹介~



作業指導員
牧瀬 憲治



生活支援員
奥野 勇治



右から3番目 会長 佐藤浩史さん

じゃがいも雑感！

四月といえば桜の時期。桜の木の下でお弁当や宴会を楽しむ姿も珍しくはないところであるが、近年の温暖化により桜の開花がおかしくなってきたようである。

桜の花芽の成長には三〜十℃前後の低温による「休眠打破」が必要らしいが、地球温暖化が進んでいくと、暖かい地方ではそれが充分に行われず、成長が遅れるらしい。

桜の開花が『過去この頃だったから、今年の予想も...』などの経験則は、地球温暖化が進めば全く通用しなくなり、温暖化の進行が目に見えるようになってきていることが怖くも感じる。

今までの常識がそうでなくなる事態は他の場面でも多々見受けられており、それと同じように世代を超えて受け継がれてきた風習も様変わりしていくのではないだろうか。

また新しい年度も始まったが、通用しない常識を自らも変えていきながら『継承』を重んじて挑んでいきたいものである。

（統括 白倉和裕）

4月号 No.217

Two black and white photographs of theatrical performances. The top photo shows a group of performers on a stage with a large, stylized backdrop. The bottom photo shows a group of performers seated on a stage, with a large banner above them reading "20週年紀念" (20th Anniversary) and a flag on the wall.

3. 乾燥させステージ上に掲示

特に最終演目のオペレッタ「鶴の恩返し」では昨年同様本来とは少し違った物語を職員で構想し、小道具の制作に利用者さんとも加わり全員で作り上げた舞台となりました。本番ではステージ上でのびのびと素敵な演技を見せてくれました。

発表会を二十回続けることができたのも、保護者様他、多くの方々の協力があつたからだと実感しました。これからも一年間の集大成の場として活動発表会を開催できますように、利用者、職員共々力を合わせて取り組みを続けていきます。

副主任 光長 まゆみ

三月、放課後等デイサービスを利用されていた島原特別支援学校高等部の三名がめでたく卒業を迎えられました。

三名は今後それぞれの道を歩まれますが、デイ雲でのたくさんの思い出を胸にこれからの活躍が期待されます。

林田美羽さん
森崎和来さん
才藤咲羅さん

祝
卒業
おめでとう
いっしょに

今年度も
にぎやかな
毎日を楽し
みながら、一人ひとりを温かく見守って
いきます。（小林）

※状況により延期・中止になる場合があります。

雲と虹

三月に卒業などを迎え、四月から新しい生活を始められた皆さんは毎日を頑張られているでしょうか。私自身は引き続き、デイ雲に在籍することとなり、変化をつけなければと自覚しています。

今年度は作業活動もちろんですが利用者の方々の意見などを真摯に受け止めて、時に利用者に寄り添って常日頃の心情や状態など内面を理解するようにしていきたいと考えています。

年度初め新たな職員も加わり皆で協力しながら、そして四月は私も誕生日を迎えるので単に歳を重ねるだけではなく、また一つレベルアップを目指していきたいです。

(副主任 高松 豊)

悠炉里

共同生活援助事業所

(介護サービス包括型)

悠炉里広報誌

4月号



平和を願って



撮影に夢中

利用者自治会活動に携わって

令和七年度の利用者自治会は、いつもなら四月に総会と入居許可式を行います。が、稲垣荘開所に伴うホーム編成の為今年度は五月に実施となります。

昨年度の自治会活動を振り返って、一年間があつという間に過ぎたというのが正直な感想です。印象に残っているのが、ホーム対抗風船バレーで、みんなの意気込みは凄まじく、普段大人しい方も目を輝かせ風船ボールをアタックしていました。その姿に感動して、頑張れーと応援にも、思わず熱が入りました。職員も参加し、点が入るとハイタッチして一緒に楽しみました。夏の素麺流しは最高でした！竹の切り出しを自治会役員と一緒に、切ってきた大きな竹で素麺流しをしました。竹からすごい勢いで流れてくる素麺をする皆さんの顔はとても素敵で良い思い出です。

忘年会では皆さんが大好きなカラオケ

を熱唱され、満面の笑顔を見る事が出来て良かったです。

総会では会長、副会長がきちんと挨拶され、感動しました。所長の挨拶は、皆のあるべき姿を話していただいたので、解り易くとても嬉しく感謝いたします。

自治会活動を通じて一緒にみんなと成長出来たような気がします。

支援員 菅原 恵

やっぱ長崎はよかどっばい♪

今年度最後の小G活動は諸事情で本来予定していた小Gへ参加できなかった三名と長崎へ。一日目は野母崎の恐竜博物館へ向かいました。

道中、右手側に軍艦島が見えてくると、軍艦島を楽しみにしていた勇さんはカメラを向け、何度もシャッターを押していました。もう一人のカメラマン、文雄さんはビデオ片手に得意気でおしゃべりにも夢中でした。恐竜博物館ではあまりの大きさと迫力に圧倒された様子でみんな「初めてみた」と口を揃えていました。



二日目は、予定を早めて稲佐山ロープウェイへ向かい頂上からの景色に二人のカメラマンは楽しそうに写真や動画を撮っていました。

昼には長崎ちゃんぽん発祥の地「四海楼」でちゃんぽんを完食し、帰路につきました。アクシデントもなく、終日楽しまれた様子に職員も嬉しさと安堵の気持ちでいっぱいになりました。

支援員 田中史子

今年度2度目の夢の国へ！

地元の名産

東京へ2泊3日の小G活動。出発を朝5時予定していたが、みんなの準備も早く4時45分にはホームを出発。初日は、「はとバスツアー」で東京タワーとスカイツリーの夜景を堪能し、とても美しくみんな感動していました。二日目はみんな楽しみにしていた東京ディズニーシーへ行き、開園と同時にミッキーやミニーの帽子を購入して、気分はもう夢の国の住人♪

散策がてらポップコーンやチュロスを楽しみ、絶叫系アトラクションではセンター・オブ・ジ・アースやフライングカーペットに乗って大満足。ジェットコースターのスリルを楽しみました。キャラクターグッズや自分へのお土産をいっぱい購入し、非日常の3日間はあつという間に過ぎ、楽しい思い出となりました。

支援員 竹市香織



チュロスおいしいよ♡



八雲寮の厨房からきました。新天地でいろんな事に挑戦していきたいです。

ようこそ、悠炉里へ～職員紹介～



岩永 節子

みなさん、ウエッキーって気さくに呼んでください。仕事頑張ります。!!



植木 邦剛

今後の予定

- ・4月27日 ホーム引っ越し
- ・5月1日 稲垣荘開所
- ・5月GW 帰省
- ・5月中旬 入居許可式
利用者自治会総会
- ・5月25日 障害者スポーツ大会



突然ですが、皆さんは気分転換の方法はお持ちでしょうか？

新年度がスタートし、多忙な時や疲弊している時など、こころという時ほど上手に気分転換できる事が重要だと感じます。気分転換やリフレッシュによって仕事も捗り、ネガティブな気持ちを払って前向きに、アクティブに過ごすことが大事です。

因みに私の最近の気分転換は、暑い温泉とサウナに入る事です。以前は浴槽に入ってもすぐ出たりと、入浴時間は短かったです。

今は1時間ぐらい入っています。風呂上がりの何とも言えないスカッとした感。他にも甘い物を食べたり、軽運動やコーヒーを飲んだりして気分転換し、充実した毎日を送れるように心掛けています。この記事を読み、是非皆さんも一つで良い気分転換の「コツ」を見つけ、充実した毎日を送ってほしいと思います。

主任 大場 康生

我ち愛

目標への一歩

三月二十七日、やはた共育大学の生活訓練二年、就労移行二年を経て一名の利用者が卒業を迎えました。

卒業生の山下優大さんの答辞では「四年間でいろんな事を学び自分自身成長できたと思います。特に、実習では仕事に対する厳しさや責任の大切さを学ぶことができました。これから就職を目標に頑張っていきます」と力強く話されました。楽しい事ばかりではなく辛い事もあるかもしれませんが、これまで学んだこと、経験したことを活かし目標に向かって頑張っていきたいと思えます。

ご卒業おめでとうございます。

(林田)



学校長から卒業証書授与

いつまでもお元気で

2月7日、古希を迎えられた永石悟さんの年祝いを開催しました。利用者主体で進行を行い、皆で祝うことができました。



花束贈呈後のショット

いつも笑顔を絶やさず仲間を和ませてくれる永石さん、これからも健康に気をつけて頑張りましょうね。おめでとうございます。

(天本)



園芸班の仲間とのショット

被服班

被服班では、たたみ作業やアイロン作業、ラベル付け、検針作業等、工程に分かれて作業しています。

今年度も工賃アップ目指して頑張ります。

(美和)



たたみ作業の様子

紙加工班

紙加工班は、素麺加工と菓子箱折りの作業をしています。

4月から新しい仲間も加わり協力しながら日々頑張っています。

(古賀)



菓子箱折り作業の様子

散歩道

「伝わる」とは自分の伝えたいことが相手に理解されていることで、「伝える」は自分の思いを一方的に伝えるという違いがあります。違いを意識することで、コミュニケーション力を高めるため、自分だけの話しをするのではなく、相手の話しをしっかりと聞き受け入れることで、信頼関係や協力関係を維持できると思います。

他にも素晴らしい提案や内容でも相手に伝わらないと意味がなく、相手に何を伝えたいかを明確にすることが大切だと感じます。この言葉の違いを意識してよりよい関係性を築いていけたらと思います。

(主任 松尾浩道)

春の訪れを感じながら

毎年恒例の花見に出かける計画が、花見予定の当日まさかの大雨に・・・。

春を感じながら桜の下でお弁当を食べる予定でしたが急遽、食堂でお弁当を食べる事に・・・。それでも、厨房の方が心を込めて作ったお弁当はすぐ空っぽになり会話も弾みました。

作業で、忙しい毎日ですが、ゆったりとした時を過ごすことができました。今年度も頑張っていきましょう♪

(大村)



お弁当に夢中♪



手作りお弁当

園芸班

園芸班は、施設外実習で地域との関わりを大切にしながら、玉ねぎ収穫や、公園や団地の除草作業に取り組んでいます。

体調に気をつけながら頑張ります。

(井上)



除草作業の様子

新職員紹介



4月よりデイ雲から異動になりました。光長まゆみです。初心にかえり、新たな気持ちで頑張ります。

New Face



酒井久行さん
4月から紙加工班で作業する事になりました。宜しくお願いします。

しんぼ、しんぼ



石川智広画伯作
『学生』

共存共栄の職場になるために

デイ雲柿の木 所長 原口由紀子

令和七年度、当事業所に新卒の壁を乗り越えて、長く勤で採用された新人職員が二〇一六年以来九年ぶりに一名配属されました。昨日まで高校生が、翌日から社会人となり、今までに経験した事のない嬉しい事や悲しい事、悔しい事や辛い事に直面する事があると思います。が、どうか一人で答えを出さず、周りを見渡して先輩や同期に相談するのも一つの方法です。仕事ですが、才能も性格も状況も違

先輩諸氏は、相談される人となり、話を聴くだけでいいの、何かしらの答えや助言を求めているのか、的確な判断をお願いします。

自分が出来ることに努力した人が評価されるのは当然のことです。

「はたらく」とは、「はた（周りを）にすること」と表現されることもあります。出し惜しみせず、もったいぶらずに持てる力を今の場所で、今の立場で発揮して働いていただければ、大変嬉しく思います。デイ雲柿の木と一緒に働いてくださってありがとうございます。どうぞよろしく。

進学おめでとございます

新しく、中学・高校生になる四名の子どもたちに進学したら何をがんばりたいか聞いてみました。



中学生になる
はるの
本田悠乃さん



中学生になる
はるの
松島利祈さん



高校生になる
はるの
中村陣さん



中学生になる
はるの
増永結愛さん

ほかにも共和国は、利用者の方はもちろん、サポーターやアルバイトに来てくれた学生のみならず、卒業する際に祝電を送っています。柿の木 中村支援員のご長男もその一人です。

中村李桜さん

運動会でボランティアをして楽しかったです。はじめて運動会のスタッフをさせてもらい、不安でいっぱいでしたが、周りの方たちが優しく教えてくださったので、とても嬉しかったです。そして先月、卒業祝いをほかにわ共和国さんから学校でもらったので、本当に嬉しかったです。本当にありがとうございます。



中村李桜さん

磨きあげろ！改善活動！

西部九州地区相談役の前田先生にハッピーサークルの発表資料をブラッシュアップして頂きました。良い資料が作れるよう頑張ります！（園田）



利用開始から今年で10年を迎えた石川さんに感謝状を贈りました

あなたの街のパン屋です♪

長年夢に見てきた販売車両を『公益財団法人 中央競馬馬主社会福祉財団』様より助成を頂き、購入することができました！今までよりもさらに、充実した設備でお客様をお迎えすることが可能です。一人でも多くの方に、私たちの製品をお届けすると同時に、福祉の理解に繋がる活動ができるよう、これからも日々邁進してまいります。

本当にありがとうございます！
ございました！（佐藤）



この車を見かけたら、ぜひお立ち寄りください



藤原裕子支援員 濱松香支援員
よろしくお願いします！

新しい仲間が増えました。

私が広報の担当になって、十年近くが経ちます。初めて作った広報誌は、見様見真似で作った記憶があります。パソコンは人並に使えると思っていましたが、編集する中での技術やポイントは未熟なことが多く、上司から教えてもらって助けられました。

元来、文章を書くことが苦手で、文章の技術を上げようとはしますが、なかなかそれは難しく、未だに突破できない壁です。ひしひしと感じたのは、自分自身の語彙の少なさで、それを補うには本を読まねばと思う反面、忙しさにかまけてそれすら出来ておりません。まだまだ上司の助言が必要です。

そんな私ですが、今年も引き続き広報の担当となりました。近年ではSNSが主流となっており、その良さを理解し、それを十分に発揮できることを目指し、皆さんに楽しんでもらえるよう切磋琢磨に努力したいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

（恵理）

5月の行事

14日 河川アダプト
21日 ホーム別活動※

※印は参加費あり

言の葉

特集

パール。バック『大地』に見る 一膳の食の持つ命と愛

私は利用者のご父兄の死と向き合ったとき、パール・バック著の『大地』の一つの場面を思い出します。

「王龍(ワン・ルン)は、自分の死後、白痴の娘がどうなるだろうか、ということが心痛であった。王龍は、白色の毒薬を1つつみ、薬屋から買っておいて、自分の死ぬ日が近くなったら、白痴の娘に飲ませる覚悟でいた。ある日、彼は梨花を呼んで『わしが死んだらな』わしが死んだあとで、この包みの中にある白い薬を飯にまぜて、あの子に食べさせてくれ。そうすれば、あの子も、わしの後を追ってこられるからな。そうなれば、わしも安心できるんだ」と頼んだ。王龍は『白痴の娘の運命を彼女に頼んでからすつかり安心』して死ぬ。しかし、梨花(第三夫人)は、王龍の死後、五十二歳でその娘が亡くなるまで、王龍がむかし暮らした土の家で、ずっといっしょに穏やかに暮らした。つまり同じ食卓を囲み、共



裕ちゃんに届いた絵手紙

「食育考」

私たちが生きていく中で「食事」は生きる為の活力であり、大切なことだと思っています。食事をするこ

とで健康な身体を維持し、心の健康や満腹感から心の安定にも繋がります。味や匂い、見た目、音や歯ごたえを感じながら、食べ物に感謝して大切に食べ、作ってくれた人たちに感謝し、残さず食べることを身につけて欲しいと願います。

食べ物も輝いて生きており、私たちが食することによってその栄養を愛情を取り入れ、「元気の源」となっていることを忘れないでほしいです。

ここ数年の悠炉里の給食に携わっていますが、食材の無駄と食料費の高騰が問題となり、四月よりスカイハイツ、千代垣荘ともにヨシケイキッチンに変更しています。

各ホームのニーズに合わせて、おかずのラインナップを選び、自分たちで調理、盛り付けまで出来るようになっていきます。

栄養士 安藤友美



に生きたのだ。しかも長女が亡くなった時「知的障害をもっていた長女は死をもって癒された、今や彼女は私たちみんなと同じです。」と梨花の言葉が感動的だ。老人や障害者にとって、食事は大変な生活の基盤である。食に関する環境は整いつつあるが、愛情を食するという基本は忘れてはならない。

理事長 志賀俊紀

私とあなたのエピソード

私は、入社して17年になります。その中で13、4年一緒に過ごしてきた方との話をしたいと思います。その方とは9年弱作業も一緒に活動してきました。もともと食事と同じです。

最初は仲良く過ごしていたと思うのですが、ある日を境に時にケンカをする仲になりました。内容は些細なことでした。例えば、「運動をしたくない」あるいは「トイレの場所」などです。

今では柿の木の名物となり、ケンカするほど仲がいい証拠として、これからも仲良く過ごして行けたらと思っています。

デイ柿の木副主任
森内さおり



お世話になった皆様へ

川上 芳子

両親が逝き、私も毎日の生活に追われ、いつも弟のことを考えていた訳ではありませんでした。心の片隅には淋しい思いをしているのなにかと思いい、暗い気持ちになる事もしばしばありました。

「ゆうちゃんのこと忘れてないからね。」この言葉を伝えたくて習い始めた絵手紙を送り続けました。

「芳子姉ちゃんありがとう。」その声が今も耳に残っています。

アルバムスライドを通して弟は幸福だったのだと強く思います。「ほかにわ共和国」で生活させ頂き幸福でした。心温まる葬儀に参列して下さった理事長ご夫妻、職員、仲間の皆様ありがとうございました。お世話になりました。

主人、妹夫婦共々、深くお礼申し上げます。



マイブーム

マイコレクション



これからさらに、料理、そして仕事も精進していきたいと思っています。

(デイ雲 小笹友幸)

私は現在、悠炉里の紫雲荘で共同生活をしており、料理を作ることがマイブームです。それぞれ帰宅時間が違うので早く帰った人から食事作りをします。以前居たホームでも食事作をしていたのですが、材料を入れるだけの簡単なものでした。今のホームでは、材料だけが届いて食材の切込みから調理、味付けまで自分たちでします。

以前は仕事から帰って食事の準備をするのが正直苦手でした。でも今は、料理が楽しくなり自分が作った食事を「美味い!」と皆が言ってくれることが励みにもなっています。また日曜日には、自分たちが食べたい物をチョイスして食材の買い出しに行き、料理をしたりします。

ほかにわ共和国の動き

- ・ 4月1日 辞令交付式
- ・ 4月中旬 稲垣荘改築完成
- ・ 5月下旬 法人監事監査
- ・ 6月初旬 理事会
- ・ 6月中旬 評議委員会
- ・ 7月1日 物故者法要